9　海の恵みを活(い)かすまち蒲江　～蒲江地域～

【現状と課題】

少子高齢化が加速し、基幹産業である水産業の厳しい状況により、人口の減少が続いています。そのような中、蒲江地域の活性化を図るためには、豊かな自然環境をいかしつつ、地場産業を絡めた新たな観光プラン・ルート開発や情報発信力の強化などによる地域活性化が必要です。

また、小学校の統廃合により、閉校後の学校施設がそのままの状態で残っており、空き家や空き店舗も増え、昔の賑(にぎ)わいはありません。地域に活気を取り戻すためには、これらの活用が必須であり、積極的な企業誘致や交流活動の支援など様々な観点から有効活用策を検討することが必要です。

さらに、今後発生が予想される南海トラフ巨大地震では、大規模な津波の襲来が危惧される中、近年の異常気象による風水害の対策も喫緊の課題となっています。

今後は、地域の自主防災会と連携し、大規模災害を想定した防災訓練を実施するなど、災害に強いまちづくりに取り組むことで、住民や地域を訪れる人々に安心を与える地域を目指します。

蒲江の豊かな自然環境を維持し活用するとともに、地域住民が安心して生活でき、人々が多く訪れるまちづくりを推進します。

【これからの基本方針】

ア　自然体験型レジャー、地場産業の見学、地域（文化）資源などを絡めた新たな観光プランや観光ルートの開発に取り組みます。

イ　蒲江ブランドの定着を図るため、特産品などのブランド力を高めます。

ウ　交通インフラの整備促進を図ります。

エ　閉校後の学校施設を有効活用し、地場産業に関連する企業やベンチャー企業の誘致に努めます。また、空き店舗の活用を図ります。

オ　災害に強いまちづくりに取り組みます。

【主な取組】

ア　蒲江の地域資源をいかした観光メニューの開発

（ア）　マリンスポーツやトレッキングなど自然環境をいかした観光プランの確立

（イ）　水産業などの地場産業を絡めた観光の企画実践

（ウ）　離島（屋形島・深島）のゲストハウスをいかした滞在型観光の推進

（エ）　観光施設のリニューアル

（オ）　花木の植栽による観光資源の開発

イ　蒲江ブランドの情報発信と定着

（ア）　料理人などを対象に、蒲江の食材を使ったイベントの実施

（イ）　あらゆる広告媒体を活用し、蒲江ブランドを発信するためのキャンペーンを実施

（ウ）　地域内の関係者や関係機関と連携し、県内外で蒲江の特産品PRイベントを実施

ウ　交通インフラの整備促進

（ア）　国道388号楠本工区及び県道古江丸市尾線葛原浦丸市尾浦間バイパストンネルなどの整備に向けた取組

（イ）　公共交通機関を活用した交通体制の確保

エ　閉校後の学校施設を活用した交流拠点づくり及び空き店舗活用

（ア）　施設を活用したスポーツイベントやコミュニティ活動の推進

（イ）　学校施設を活用した養殖業の研究など、あらゆる分野からの参入者の掘り起こし

（ウ）　蒲江浦中心部の空き店舗の活用

オ　大規模災害を想定した防災・減災対策を推進

（ア）　自主防災会、消防団、防災士等と連携し、地域防災力強化のための訓練を実施

（イ）　住民や来訪者にわかりやすい避難路や避難地の誘導標識等を設置

（ウ）　各地区の津波対策用備蓄倉庫内への食糧、防災備品の整備促進

（エ）　自主防災会、社会福祉協議会との連携による避難行動要支援者支援プラン作成

（オ）　防災・行政ラジオの設置促進

重点プロジェクト

人を呼び込む蒲江周遊観光プロジェクト

蒲江地域内にある東九州自動車道の蒲江ICと蒲江波当津ICからより多くの人を地域内に周遊させるかがカギとなります。これからの蒲江地域は、今まで築き上げてきた食観光や特産品のブランド力を伸ばしつつ、豊かな自然環境と食を絡め、既存の観光スポットが四季を通じて楽しめる観光スポットとして注目されるよう磨き上げを行います。これらの観光スポットを線で結び、周遊観光の促進を図ることで交流人口の増加につなげます。

【目標指標】

目標内容	基準値 平成28年度（2016年度）	目標値 平成34年度（2022年度）
蒲江独自の新たな観光推進による観光入込客数	582,385人	650,000人

波当津海岸